

## 2017 年（平成 29 年）の貧酸素水塊 まとめ

2017 年の底層の溶存酸素量分布を図 1 に、縦断ラインにおける貧酸素水塊の規模を図 2 に、年最大規模の経年変化を図 3 に示します。

貧酸素水塊の初確認は 5 月 8 日で、初確認の時期としては例年並みでした。初め内湾北部の一部で発生した貧酸素水塊は、5 月 18 日には内湾北部の広範囲に分布しました。6 月 1 日の観測では内湾北部から盤洲沖や横浜沖まで分布域が拡大し、水深 20m 以深では溶存酸素量（以下、DO）1.5mL/L 以下と強く貧酸素化しました。この時期以降、成層発達に伴い貧酸素化が進み、6 月 12 日の千葉県側は DO 0.5mL/L 以下のほぼ無酸素状態となりました（図 1）。

鉛直縦断面の貧酸素水割合を規模とすると、5 月から 7 月にかけて規模は徐々に拡大し、7 月 18 日に今年の最大規模（43%）となりました（図 2）。最近 10 年間の年最大規模と比較すると、本年の規模は 7 番目の大きさで、それほど大きくはありませんでした（図 3）。

7 月下旬以降は、湾奥での青潮発生や 8 月の短日照等の影響で、貧酸素水塊の規模は 7 月 18 日以上には拡大せず、9 月 13 日に大きく縮小し、11 月 1 日に例年よりやや早く解消を確認しました。

千葉県水質保全課によると、青潮は 8 回発生しました（6 月 14～15 日、6 月 19～21 日、7 月 27～8 月 1 日、8 月 3～7 日、8 月 16～21 日、8 月 28～29 日、9 月 1～4 日、10 月 16～20 日）。

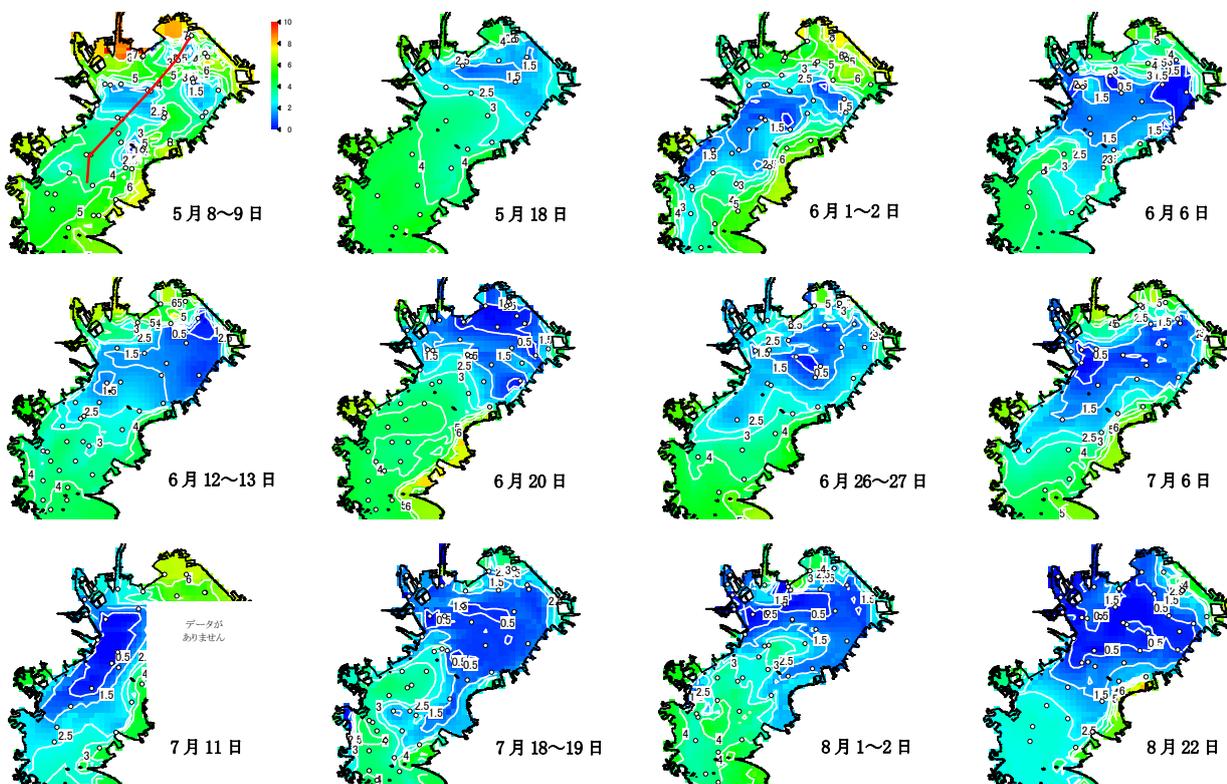


図1 底層の溶存酸素量分布 等値線の単位は mL/L 赤線は縦断ライン

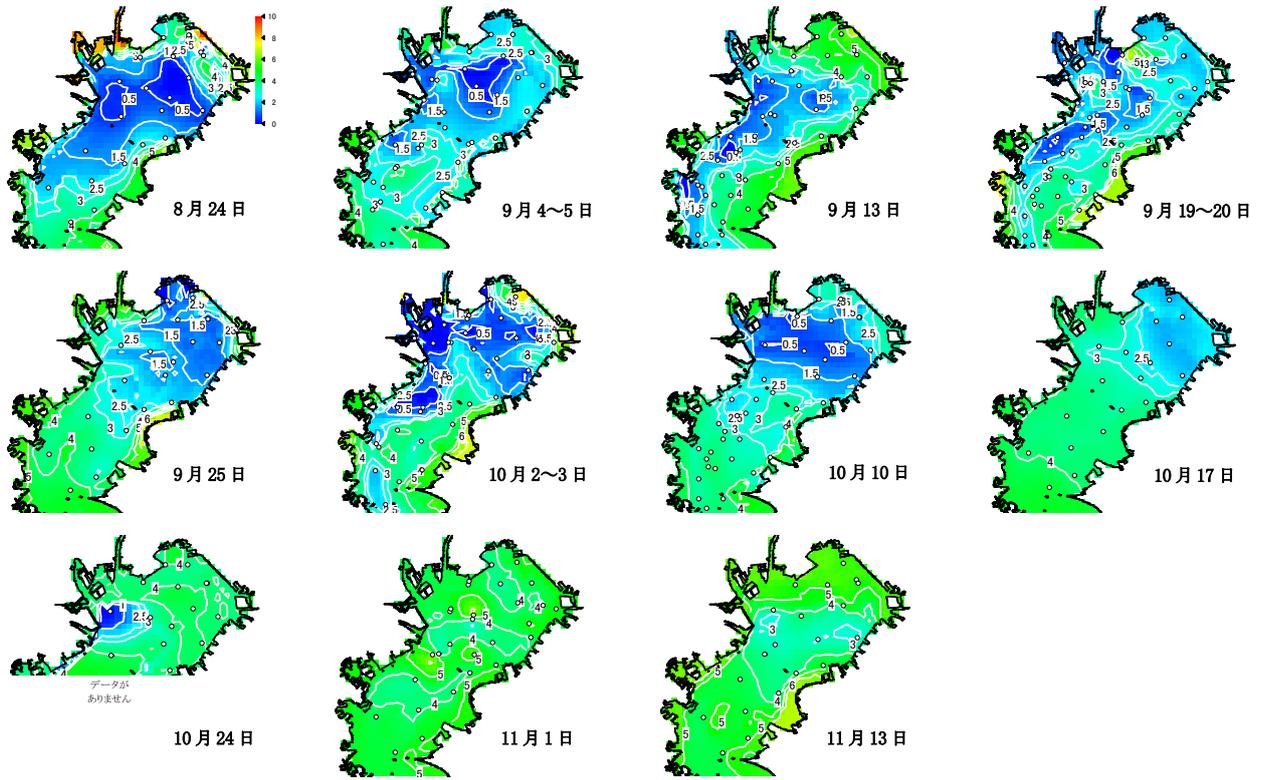


図1 底層の溶存酸素量分布 (続き)



図2 縦断ラインにおける貧酸素水塊の規模

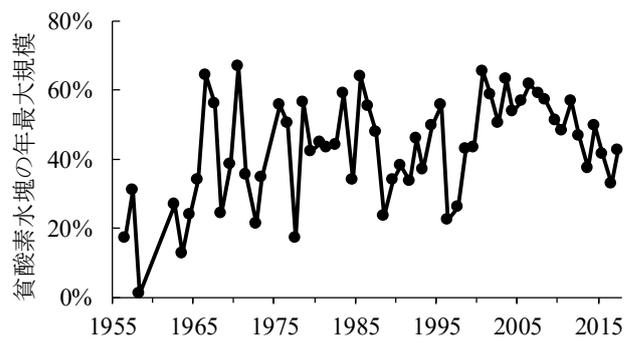


図3 貧酸素水塊の年最大規模の経年変化